

# 浜名湖におけるハマグリ の生態研究

(予算区分 [受託] 研究期間 2025～2028 年度)  
担当：水産・海洋技術研究所浜名湖分場 北川裕一

## 【研究の背景とねらい】

- ・ 浜名湖の採貝漁業の漁獲対象はこれまではアサリでしたが、2022 年からハマグリも対象となりました。
- ・ 浜名湖におけるハマグリ の生態は不明な点が多いため、資源を持続的に利用するためには、科学的根拠に基づいた資源管理策が必要不可欠です。
- ・ そこで本研究では、浜名湖におけるハマグリ の分布や成長、さらに母貝場の環境条件などを明らかにします。

## 【これまでに得られた成果】

- ・ 新川の河口から 500～1,700m 上流域にハマグリ が分布していることがわかりました。
- ・ また、ハマグリ が生息する環境条件としては、中央粒径が大きく、強熱減量が少なく、かつ水深が浅い場所に多く分布する傾向にあることがわかりました。
- ・ ハマグリ の消化管内容物の主組成を分析したところ、小型のハマグリ は藍藻類を餌料源としていることがわかりました。

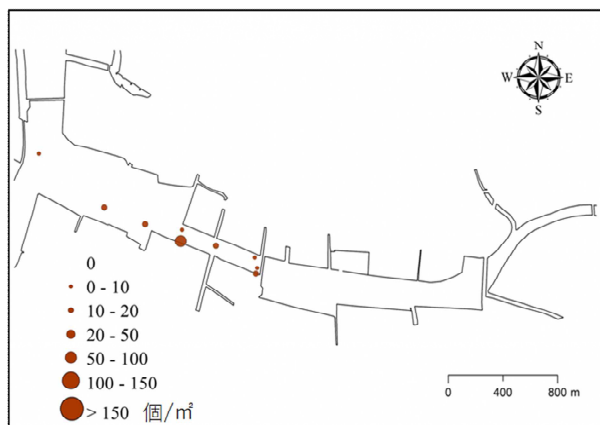


図 1 新川におけるハマグリ の生息密度

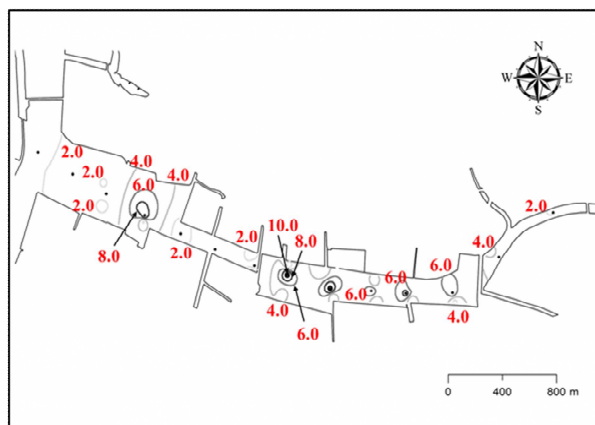


図 2 新川における強熱減量の分布  
(数値の単位は%)

## 【期待される成果】

- ・ 科学的根拠に基づいた資源管理策を漁業者へ提示、漁業者自らが設定することで資源の持続的利用の促進が期待されます。

## 【今後の計画】

- ・ 水深が分布に影響していると考えられたため、さらに浅い場所で調査を行い、より詳細に影響を評価します。
- ・ アサリやオキシジミなど、他の二枚貝の生息環境を評価・比較することで、ハマグリ のより詳細な生息環境の特徴を評価します。
- ・ 消化管内容物の主組成をハマグリ 大きさ別 (大型～小型) に分析することで、ハマグリ の成長段階に応じた餌料源を把握します。

(作成 2026 年 4 月)